

図書館だより



No. 4

平成 26 年 7 月 23 日発行

昨日、関東地方も梅雨明けが発表され、いよいよ夏本番となりました。今年の夏も花火大会やお祭りがなど賑やかなイベントがあちこちで開催され、梅雨明け後の暑さに悲鳴をあげつつもあちこちへと出かけたくくなりますね。

この近辺では7月26日～27日に川越百万灯夏祭りが開催されます。川越城主 まつだいら やまとのかみ なりつね 松平大和守齊典候の遺徳を偲んだ切子灯籠から始まったとされる、この川越百万灯夏祭りでは、色とりどりの提灯で町が飾られ、神輿や時代行列など市民参加型の様々な催しが行われます。中でも、全国各地から踊りのチームが参加する「OH!通りゃんせ KAWAGOE」では、様々なジャンルの踊りが披露され、見る人を楽しませてくれる人気のイベントとのこと。訪れる際には、ぜひこのイベントも見てみたいですね。



淡い青色を纏って踊る夏*

9136-オ『夏のくじら』 大崎 梢 || 著 文藝春秋

東京を離れ、祖父母の暮らす高知へ進学した篤史。「高知へ進学したのは、たまたま」と口にしてはいるけれど、ここには忘れられない思い出があった。中学生だった時、従兄弟の多郎に誘われて踊ったよさこい。そこで出会った女の人。名前もどこの誰かも知らないその人のことがずっと心に残っている。あの日、果たせなかった約束。心に秘めていた思いを言葉にした時、あの日で止まったままの時間が動き出す。再び、よさこいを踊ることになった篤志は、踊れば踊るほど、よさこいが彼女を探し出すためのものではなく、よさこいを感じる。大切なものがたくさん見つかるたびきりの夏、その熱気と爽快さをあなたも感じてみてください。

世界中のお祭り集めました*

386-ト『大好きに会いに行こう!』 サンクチュアリ出版

世界には素敵なお祭りがたくさんたくさんあります。思わず鳥肌が立ってしまう神秘的なお祭り、参加した人の熱気が伝わってくる賑やかなお祭り、「こんなお祭りがあるの!？」と笑ってしまうようなお祭り…、とにかくお祭りづくしの見えて楽しくなる1冊です。

体験者の声を読んでいると、お祭りを求めて世界を旅したくなってしまいます。載っている詳細データを見ながら、「今の時期なら、このお祭りに参加できる!」なんて空想のプランを立てながら読むと、なお楽めてオススメです。

図書館カレンダー

7月

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

□ 開館日 ■ 閉館日

開館時間 * 8 : 50 ~ 17 : 00

以上の日程で夏休み中も図書館は開館をします。

宿題を片付けるのにも、読書やDVD鑑賞を楽しむのにも、図書館は最適な場所です。進学講座等でスクールの配車もありますので、夏休み中も学校へ通い、図書館をたくさん活用してください。下記に夏におすすめの本を紹介します!!

290-ア『世界の聖地 BEST500』 ジル・アンダーソンほか || 著 日経ナショナル・ジオグラフィック社

せつかくの夏休みなのに、どこにも出かける予定がない…という人におすすめしたいのが、家にいながら世界中のパワースポットを旅する気分が味わえるこの本です。

紹介されている聖地はなんと500か所。思わず魅入ってしまう世界中の素晴らしい聖地との出会いがたくさん待っています。文字を追わずに眺めているだけでも楽しめますし、パワーをもらっているような感じがして、いつまでも本を開いていたくなります。数ある聖地の中から自分とフィーリングの合う聖地を見つけてみてください。

933-ロ『ハリー・ポッターと賢者の石』 J. K. ローリング || 著 静山社

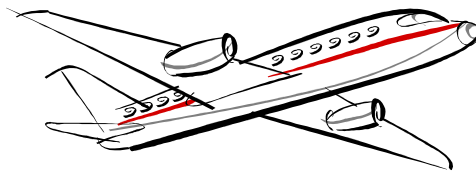
7月15日、ユニバーサルスタジオジャパンに世界で2番目の「The Wizarding World of Harry Potter」が登場しました。この夏休みにさっそく訪れようと計画している人もいるのではないでしょうか。世界中で愛されているハリーは、もちろん大勢の人がすでに原作を読み映画も楽しんだ、よく知られたお話です。でも、何度でも本を読み返してみれば、そのたびに新しい発見があるものです。最終巻で解き明かされる謎の伏線だって、1回では気づけなかったでしょう。ぜひ、この機会に全巻を一気読みしてその世界を深く味わってみてください。図書館には原書も用意してあるので、英語で読むのに挑戦してみるのもいいですね。

未来を切り開くためのキーワード

『未来を切り開くためのキーワード』第4回目のキーワードは“**世界に飛び出す**”です。

グローバル化社会である現代、みなさんにも世界に飛び出すチャンスが多く備わっています。ただ、そのチャンスを待っているだけでなく、意欲的に世界と繋がり、国際人として活躍してほしいと思います。

世界に飛び出すチャンスにはどんなものがあるのか、そして、世界に飛び出してどんなことができるのか、そうしたみなさんの疑問に役立つであろう本を紹介합니다。興味や関心の目を世界に広げ、自分の可能性も広げてみましょう。



グローバル化社会を生きる

159-タ 『竹中流「世界人」のススメ』 竹中 平蔵 || 著 PHP研究所

『世界は広い、世界を目指すことは楽しい』、『グローバル化した社会においては、世界と関わらずに生きていくことは不可能だ』と語る著者の竹中さんは、この本で、グローバルな人材になるために「世界と戦う覚悟を持つ」、「世界を知る」、「世界と戦うための力を身につける」、この3つのことをみなさんに伝えています。

グローバル化とは何か、というところから始まり、日本の現状、世界の現状、そして、これからの世界についてなど、きつとどこかで耳にしているはずなのに頭に入っていなかった言葉が「なるほど」と頷けるわかりやすさで、スツと頭の中に入ってきます。知識が増やし、より広い視野での物事の捉え方、考え方を身につけ、世界に飛び出す力を培ってください。

心に残る見知らぬ人たちの親切

289.1-ミ 『ロンドン成り行き半生記』 宮島満江 || 著 トランスワールドジャパン

教師として3年ほど日本で働いたあと、25歳でロンドンへ留学し、オペア(ホームステイ先で子守などの仕事を担う)として働きながら英語学校に通いケンブリッジの英検に受かり、東京銀行の現地スタッフとして就職し、野村証券に転職、その後50歳で英国の法廷弁護士の資格を得てから再度東京銀行(この時は合併して東京三菱銀行)に就職し現地法務課で働いた経歴を持つ著者は、アグレッシブだったわけではなく成り行きだったと言います。けれど彼女が海を越えた1973年当時は、親の寿命を縮めてまで行くなと引き止められるほど、外国は遠いところでした。彼女を突き動かしたのはゲーテの言葉だったそうです。「いろいろなことを君は怠った一行動するかわりに君は夢をみていた 感謝を述べるどころを 君は黙っていた 旅するはずだったのに 君は寝そべっていた」

世界で仕事をする心構え

319-ナ 『世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」』 長嶺 義宣/外山 聖子 || 編 阪急コミュニケーションズ

国際機関やNGOで働く日本人。彼らは、どんな決意を持って、世界へと飛び出したのか。きっかけは何だったのか。多様な人種がいる職場環境の中で、どんな挫折を味わい、どう乗り越えたのか。実際の経験を元にした生の声を知ることができます。

世界へ飛び出すということは、国ごとに違う人間関係の「秩序」に身を置くということ。当然、相手への伝え方もそれぞれ変わってくる。そこで必要となってくるコミュニケーションの取り方、判断の仕方、個人ではなく組織としての動き方などは、どんな仕事に就く上でも大事な“仕事の基本”となります。社会人としての姿勢を知るためにも役立ててください。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

今月は坂木司さんの『先生と僕』(913.6-サ 双葉社)を読みました。

主人公は上京したての初々しい大学生 伊藤双葉。長所は、画像をスキャンするのを見たものを記憶できること。短所は、ネガティブな想像を暴走させる極度のこだわり屋なところ。なのに、うっかり推理小説研究会に入ってしまう。

読めないミステリーを片手に途方に暮れている時に会ったのが中学一年生の隼人。隼人は双葉に家庭教師のフリをしてほしいと持ちかけてくる。双葉は隼人のために家庭教師のフリをし、隼人は双葉にミステリーの先生としてアドバイスをする。不思議な関係が成立したふたりは、真逆のタイプながら、なかなかのいいコンビ。大のミステリー好きの隼人と共に日常に起こる不可解な出来事に首をつっこんでいく。事件が起こるたび、それになぞらえて隼人が推理小説を紹介してくれるのですが、こちらは実在する本なので、気になった人はチェックしてみてください。



【今井】

たまに、おかしな順番で本を読むことがあります。早く読みたくて、シリーズものなのに手に入った順にすぐ読んでしまうためです。今回は**2作目『玻璃の天』→1作目『街の灯』→3作目『鷺と雪』**

(913.6-キ 北村薫 文藝春秋)の順でした。それぞれ3篇の小説が収録されていて、1話ごとに謎ときと、文学的な逸話と大正から昭和へと移り変わる時代の空気がちりばめられています。主人公は土族出身の巨大財閥系の商事会社の社長令嬢という、筋金入りのお嬢様。首相が暗殺される事件が起きて「これといって変わったことはなかった」としか語りません。そんな彼女を護り謎解きの手伝いをするのが、当時は珍しい女性ドライバー別宮みつ子。まるで宝塚歌劇から抜けてたように恰好よい彼女はベッキーさんと呼ばれ、教養や武芸そして推理力も発揮するスーパーレディです。ベッキーさんと過ごすことで成長する主人公は、最終話で淡い恋心と歴史的な大事件に遭遇します。今度こそ彼女は変事に気づきます。ああ、なぜ順番通りに彼女の成長と変化に富んだ時代を読み進めなかったのでしょうか。反省。【鈴木】